



壮大なメディアイベントとして
多様化していく大正・昭和戦前期の「博覧会」。
散逸するおそれの強い公式報告書・写真帖
などの諸資料を復刻し、
経済史、メディアスタディーズ、植民地研究など、
さまざまな分野から注目を浴びる
その全容を浮かび上がらせる資料群を集大成！

二〇一一年九月刊行開始！

▽総監修

津金澤聰廣

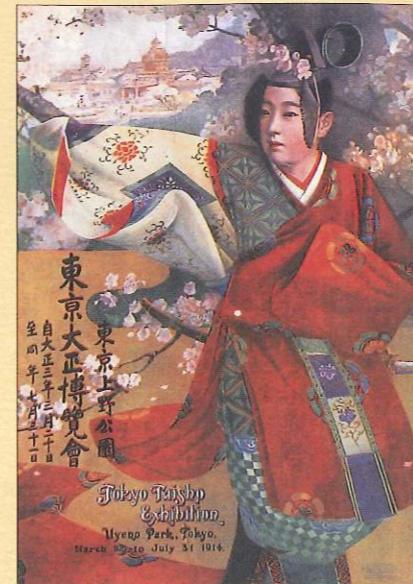
(関西学院大学名誉教授)

山本武利

(早稲田大学名誉教授)

近代日本博覧会資料集成

復刻版



復刻版

近代日本博覧会資料集成

◆配本予定・構成

◆第1回配本

《植民地博覧会I 台湾》全3巻

第1巻 始政四十周年記念台湾博覧会誌

(1933年、1120ページ、B5判)

第2巻 始政四十周年記念台湾博覧会写真帖

(1933年、560ページ、B5判)

第3巻 始政四十周年記念台湾博覧会写真帖

(1933年、230ページ、A4判)

編・解説：林恵玉（中央大学講師・台湾研究）

原本提供：滋賀県立図書館

全3巻 摘定価：本体89,000円+税（分売不可）

ISBN: 978-4-336-0555-5-3

2012年9月発売予定

◆書店外商のみなさまへ

博覧会資料は、幅広い分野での活用が期待されます。複数の大学学部への販売促進をお願い申し上げます。

- 経済学部・商業学部・法学部系 ▷ 経済史、産業史、交通史、社史、行政史
- 文学部系 ▷ 近代史、文学史、女性史、軍事史、人類学、植民地研究
- 理工学部系 ▷ 建築史、技術史
- 社会学部系 ▷ メディアスタディーズ
- 教育学部系 ▷ 教育史、博物館学
- 家政学部系 ▷ 服飾史、住居史
- 芸術学部系 ▷ 美術史、工芸史、デザイン史、音楽史、演芸史
- 観光学部系 ▷ 観光学

…ほか

また、各県特設館の出品目録等、県・市立図書館の郷土資料としても有用です。



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL: 03-5970-7421 FAX: 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp> e-mail: sales@kokusho.co.jp

◎総監修
津金澤聰廣 関西学院大学名誉教授
山本武利 早稲田大学名誉教授

◎推薦者（五十音順）
君塚仁彦 東京学芸大学教授（戦争の表象・博物館学）
藤岡洋保 東京工業大学大学院教授（建築史）

◎監修

《植民地博覧会II 满洲》全5巻

編・解説：川崎賢子（日本映画大学教授）
第1巻 大連市催満洲大博覧会協賛会誌
(1934年、780ページ、A5判)

第2巻 大連市催満洲大博覧会協賛会誌
(1933年、176ページ、A5判)

第3巻 風雲る大連と満洲大博覧会／満洲大博覧会案内／満州風物写真帖
(1934年、190ページ、A5判)

第4巻 大連勧業博覧会誌
(1926年、540ページ、A5判)

第5巻 大連勧業博覧会記念写真帖
(1925年、198ページ、B5判)

編・解説：川崎賢子（日本映画大学教授・文学）
原本提供：愛媛県立図書館 国際日本文化研究センター、東京学芸大学
全5巻 摘定価：本体93,000円+税（分売不可）

ISBN: 978-4-336-0555-2-1 2012年12月発売予定

◆以下続刊（予定）

《婦人・こども・電気博覧会》

編・解説：木村涼子（大阪大学教授・女性史）
教授・メディア史）、福間良明（立命館大学准教授・メディア史）

《東京大正博覧会》

編・解説：加藤哲郎（橋大学名誉教授・政治史）、井川充雄（立教大学
教授・メディア史）、福間良明（立命館大学准教授・メディア史）

《平和記念東京博覧会》

編・解説：吉見俊哉（東京大学大学院教授・メディア史）
教授・メディア史）、福間良明（立命館大学准教授・メディア史）

興味の尽きない「博覧会報告書」

老川慶喜（立教大学教授・経済史）

19世紀から20世紀にかけて開催された国内外の博覧会は、近代日本の工業化に大きな影響を及ぼした。

1862（文久2）年にロンドン万国博覧会を見学した福澤諭吉は、博覧会を「その国の名産、便利の機械、古物奇品を集め、万国に示し、知識や技術を交換して文明を発展させる場であるとした。明治政府は、こうした博覧会を殖産興業政策のなかに位置づけ、万国博覧会を通じて欧米の技術や制度を積極的に導入し、内国博覧会を各地で開催し、諸産業の発展をはかった。

博覧会は、経済政策や産業政策の重要な一環であった。内国博覧会は、日清戦争後に開催された第五回国博覧会を境に殖産興業政策的な「勧業」博から「帝国」の博覧会へと性格を変えたとされるが、「勧業」的な意味がなくなつたわけではない。むしろ、博覧会報告書には開催時における日本経済の諸問題が凝集されており、興味の尽きない経済史・産業史研究上の貴重

な資料といえる。しかし、これまで必ずしも十分に利用されてきたわけではない。このたび国書刊行会から、各種博覧会の報告書が刊行されることになったが、多くの経済史や産業史の研究者に利用されることを願つてやまない。



『大連勧業博覧会誌』(1926年)より

京都市出品／福岡県出品



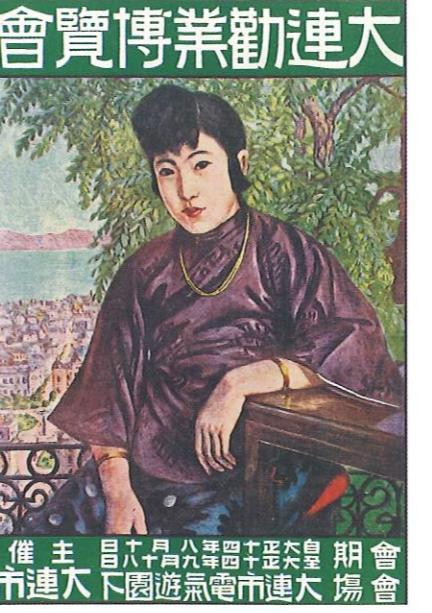
品出市都京

(一)

品出縣内

博物館学研究の基礎資料として

君塚仁彦（東京学芸大学教授・博物館学）



『大連勧業博覧会誌』(1926年)より

会覽博業勸連大



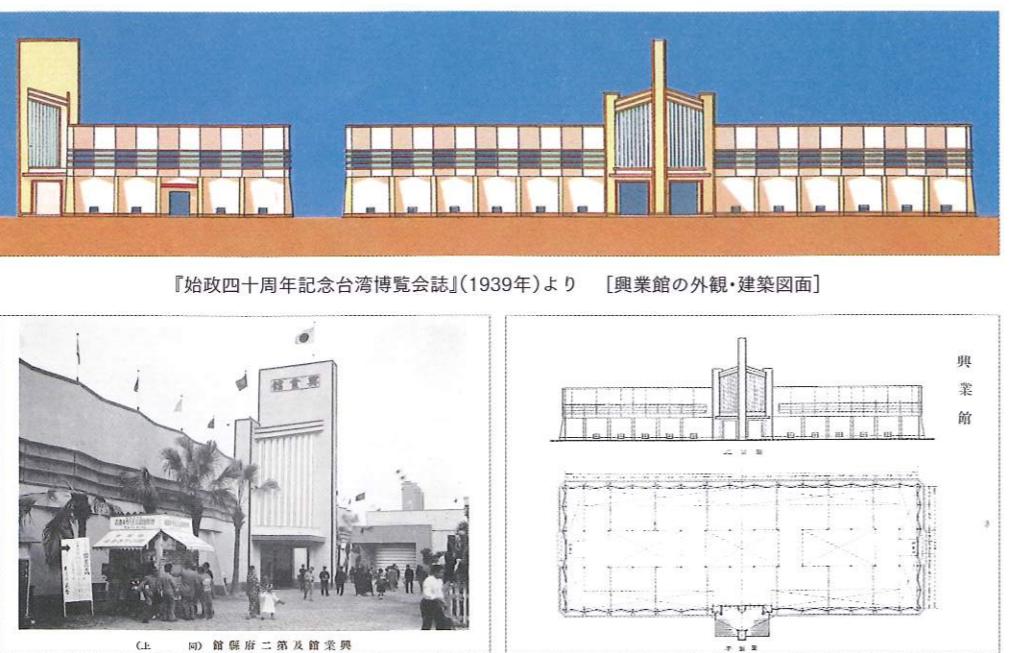
『名古屋汎太平洋平和博覧会誌』(1938年)より

時代の技術や物産、デザインを映し出す史料としての 博覧会報告書

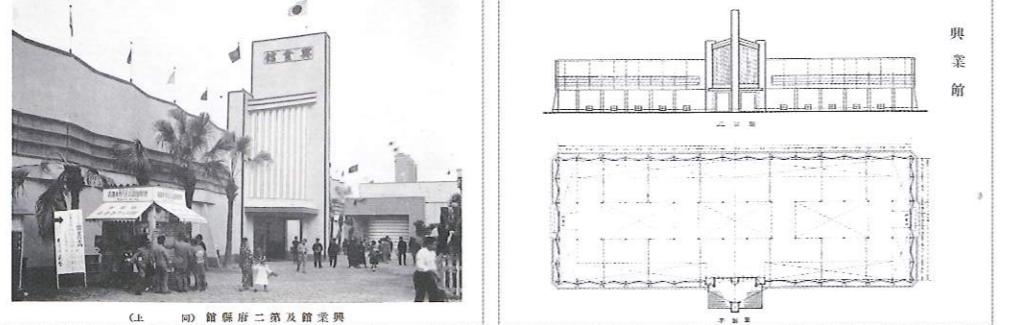
藤岡洋保（東京工業大学大学院教授・近代建築史）

19世紀後半から20世紀は「博覧会の世紀」として知られる。日本は海外の万国博覧会に積極的に参加しただけではなく、国内や植民地でも数多くの博覧会を開催した。それは、この時代が国民国家の形成期で、日本も他の国民国家に伍して発展するためには殖産興業を推進する必要があり、さまざまな物品を一堂に集めた博覧会がその啓蒙の場として重要な役割を果たしたからである。

基礎資料としても重要な内容を持つている。「近代」とは何か? — 博覧会を通じてその意味を考えていいく上でも、また、博物館学研究を志す者にとっても、重要かつ必要不可欠な資料群であると言えよう。



『始政四十周年記念台湾博覧会誌』(1939年)より [興業館の外観・建築図面]



〔上〕同 館前廣場二第及館業興
〔下〕同 館業興及館前廣場二第



『始政四十周年記念台湾博覧会誌』(1939年)より

協賛会発行記念絵はがき



『始政四十周年記念台湾博覧会誌』(1939年)より

協賛会発行記念絵はがき

博覧会開催に際しては、農商務省（商工省）などの支援の下に実施のための組織がつくられた。博覧会終了後、それらの団体は詳細な報告書を出している。それは、出品物や、会場の様子、関係者などを記録するためだつた。博覧会は期間限定なので、この報告書こそがその様子を知るための最良の手がかりになる。それを繙けば、当時の最新技術や特産品について知ることができるのである。

また、会場に建てられたパヴィリオンは、仮設とはいえない、あるいは仮設だからこそ、建築家が新しいデザインを試みる機会になり得たし、ある国や地域の独自性をパヴィリオンのデザインに表現しようとするところもあった。たとえば、東京大正博覧会（1914年）では、ウイーンではじまったセツションという最新のデザインが多くパヴィリオンに適用され、建築が変わりつつあることをアピールする契機になつたし、大連市催満洲大博覧会（1933年）では、正門や迎賓館、演芸館などに当時流行っていたアール・デコの影響が見られる。これらの報告書には、パヴィリオンのデザインだけではなく、ポスターなどの図版も掲載されている。

このように、博覧会の報告書は、技術や建築、デザイン、工芸など、当時のさまざまなジャンルについて知ることができる貴重な史料なのである。今回の復刻によって、この史料に接しやすくなるのは大変喜ばしいことといえる。

あつた。19世紀以降、欧米では博覧会を契機に多くの博物館が設立され、近代博物館の歴史において博覧会は重要なフェアターとなつていく。

本資料集成には、植民地帝国としての近代日本が、台湾や「満洲」などで開催した博覧会をはじめ、婦人・子ども・電気博覧会、戦時・国防博覧会、東京大正博覧会、平和記念東京博覧会など、現在では入手困難な博覧会資料が多数収録されている。いずれも、日本における博覧会研究だけではなく、博物館学研究の



『支那事變戰博覧会誌』(1940年)より

興味の尽きない「博覧会報告書」

老川慶喜（立教大学教授・経済史）

19世紀から20世紀にかけて開催された国内外の博覧会は、近代日本の工業化に大きな影響を及ぼした。

1862（文久2）年にロンドン万国博覧会を見学した福澤諭吉は、博覧会を「その国の名産、便利の機械、古物奇品を集め、万国に示し、知識や技術を交換して文明を発展させる場であるとした。明治政府は、こ

うした博覧会を通じて欧米の技術や制度を積極的に導入し、内国博覧会を各地で開催し、諸産業の発展をはかった。博覧会は、経済政策や産業政策の重要な一環であった。内国博覧会は、日清戦争後に開催された第五回国博覧会を境に殖産興業政策的な「勧業」博から「帝国」の博覧会へと性格を変えたとされるが、「勧業」的な意味がなくなつたわけではない。むしろ、博覧会報告書には開催時における日本経済の諸問題が凝集されており、興味の尽きない経済史・産業史研究上の貴重

な資料といえる。しかし、これまで必ずしも十分に利

用されてきたわけではない。このたび国書刊行会から、各種博覧会の報告書が刊行されることになったが、多くの経済史や産業史の研究者に利用されることを願つてやまない。



『大連勧業博覧会誌』(1926年)より

京都市出品／福岡県出品



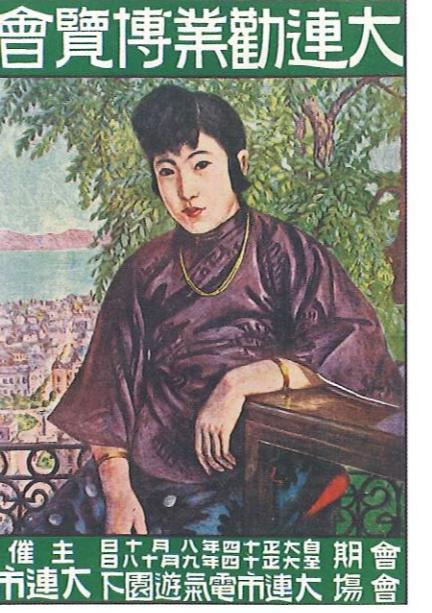
品出市都京

(一)

品出縣内

博物館学研究の基礎資料として

君塚仁彦（東京学芸大学教授・博物館学）



『大連勧業博覧会誌』(1926年)より

会覽博業勸連大



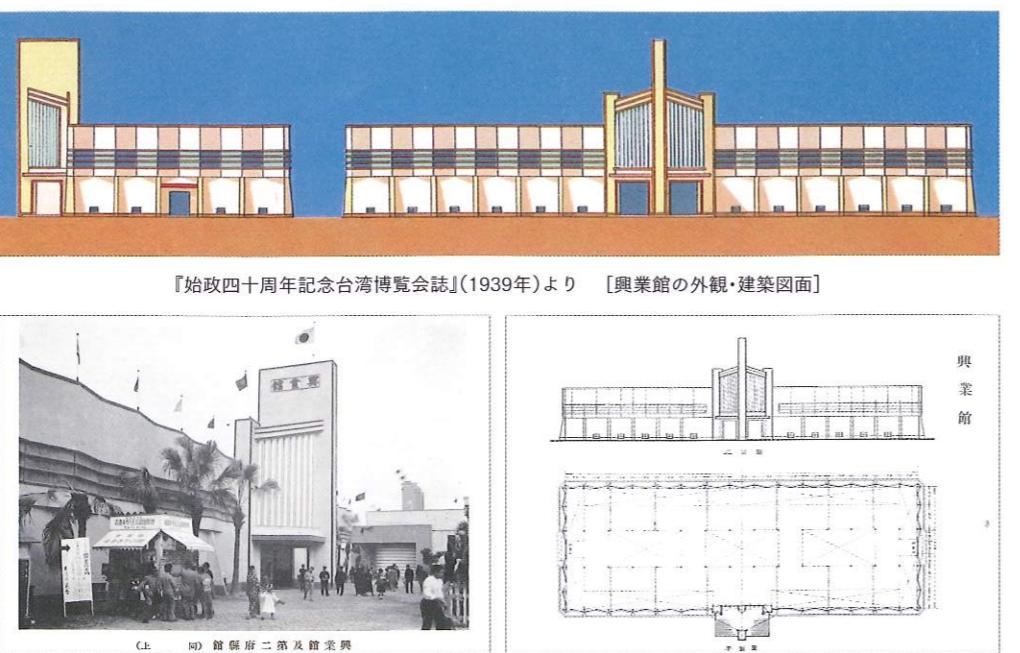
『名古屋汎太平洋平和博覧会誌』(1938年)より

時代の技術や物産、デザインを映し出す史料としての 博覧会報告書

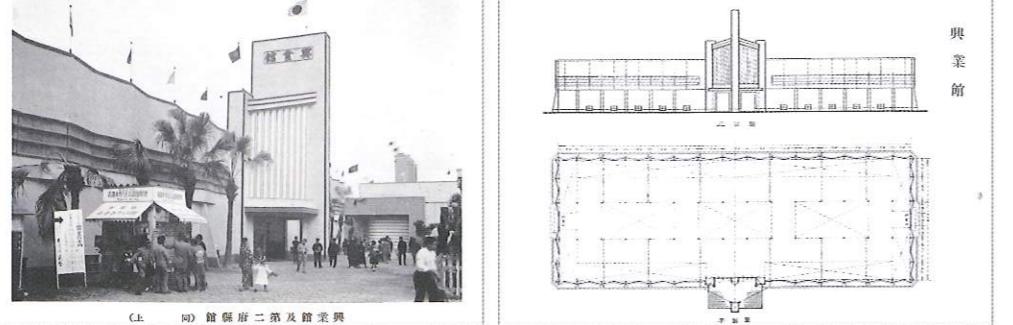
藤岡洋保（東京工業大学大学院教授・近代建築史）

19世紀後半から20世紀は「博覧会の世紀」として知られる。日本は海外の万国博覧会に積極的に参加しただけではなく、国内や植民地でも数多くの博覧会を開催した。それは、この時代が国民国家の形成期で、日本も他の国民国家に伍して発展するためには殖産興業を推進する必要があり、さまざまな物品を一堂に集めた博覧会がその啓蒙の場として重要な役割を果たしたからである。

基礎資料としても重要な内容を持つている。「近代」とは何か? — 博覧会を通じてその意味を考えていいく上でも、また、博物館学研究を志す者にとっても、重要かつ必要不可欠な資料群であると言えよう。



『始政四十周年記念台湾博覧会誌』(1939年)より [興業館の外観・建築図面]



〔上〕同 館前廣場二第及館業興
〔下〕同 館業興及館前廣場二第



『始政四十周年記念台湾博覧会誌』(1939年)より

協賛会発行記念絵はがき



『始政四十周年記念台湾博覧会誌』(1939年)より

協賛会発行記念絵はがき

博覧会開催に際しては、農商務省（商工省）などの支援の下に実施のための組織がつくられた。博覧会終了後、それらの団体は詳細な報告書を出している。それは、出品物や、会場の様子、関係者などを記録するためだつた。博覧会は期間限定なので、この報告書こそがその様子を知るための最良の手がかりになる。それを繙けば、当時の最新技術や特産品について知ることができるのである。

また、会場に建てられたパヴィリオンは、仮設とはいえない、あるいは仮設だからこそ、建築家が新しいデザインを試みる機会になり得たし、ある国や地域の独自性をパヴィリオンのデザインに表現しようとするところもあった。たとえば、東京大正博覧会（1914年）では、ウイーンではじまったセツションという最新のデザインが多くパヴィリオンに適用され、建築が変わりつつあることをアピールする契機になつたし、大連市催満洲大博覧会（1933年）では、正門や迎賓館、演芸館などに当時流行っていたアール・デコの影響が見られる。これらの報告書には、パヴィリオンのデザインだけではなく、ポスターなどの図版も掲載されている。

このように、博覧会の報告書は、技術や建築、デザイン、工芸など、当時のさまざまなジャンルについて知ることができる貴重な史料なのである。今回の復刻によって、この史料に接しやすくなるのは大変喜ばしいことといえる。

『大連市備滿洲大博覽會誌』より目次（抄録）

宣伝振作	宣伝用ポスター／宣伝歌募集／宣伝歌「ミス満洲」／パンフレット／新聞雑誌宣伝／ラヂオ放送／娘々祭利用宣伝／各種宣伝／協賛会の宣伝
観覧客其他に対する手配	観覧団体客の取扱／旅客収容能力／宿泊料の割引／満洲人見学団の取扱／関税免除／船車運賃の割引／運賃の協定
会場敷地の選定	会場敷地と環境／土地の借受
敷地と環境／土地の借受	敷地と環境／土地の借受
地鎮祭	地鎮祭
上棟祭	上棟祭
別館の施設計画	別館の施設計画
建設物一覧	建設物一覧
造園と農園	造園／児童遊園地／満洲農園
電気と瓦斯と水道	電気と瓦斯と水道
出品物の搬入	出品物の搬入
特設館其の他の申込	特設館其の他の申込
観覧と入場券	観覧と入場券
特設館と特設物	福岡館／八幡製鐵所特設館／広島館／静岡館／朝鮮館／大阪館／東京館／奈良館／京都館／愛知名古屋館／兵庫館／台灣館／熊本館／北海道館／宮崎館／関東厅館／神奈川館／岡山館／満鉄館／住友館／三菱館／三井館／電気普及館／瓦斯館／京城紡織館／其他の特設館と特設物
接待	出品人員と点数
入場者の状況	出品物の売約
福券附入場券の発売と当籤金	福券附入場券の発売と当籤金
接待	観覧者接待／満洲国人観行団／日本新聞協会大会／日満実業懇談会／満洲薬学会大会／其他の接待
協賛会	協賛会
各種の催物	各種の催物
出品物の審査	出品物の審査
福引デー／国防デー／満洲国デー／宝探しデー／子供デー／第二回福引デー／市民デー／その他の催物（生花茶の湯大会・馬匹共進会・全満写真美術展覧会・満博バンド演奏・島根の夕・愛知名古屋デー・おけ	福引デー／国防デー／満洲国デー／宝探しデー／子供デー／第二回福引デー／市民デー／その他の催物（生花茶の湯大会・馬匹共進会・全満写真美術展覧会・満博バン

『平和記念東京博覧会事務報 告(上・下)』より目次(抄録)

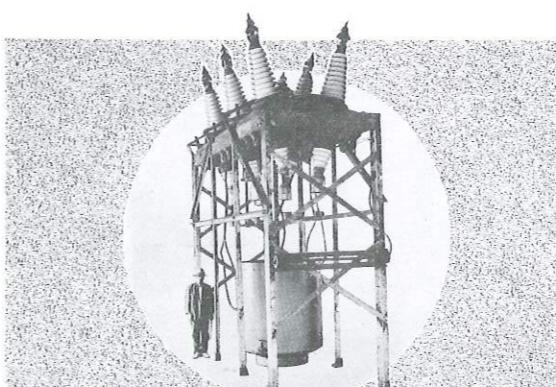
喇嘛祭事・樂天地デー・サクラカメラデー・聖徳おどり・満鉄デー・軍用犬共進会・大連新聞デー・福岡デー・京都デー・「ミス満洲」の夕・天后宮祭事・海軍々樂隊の夕・満洲日報デー・生魚放流式)	第十一章 諸般ノ準備
閉会式	第三編 開会中ノ施設
感謝状と記念品	第十二章 会場設備
決算と残務整理	第一節 通信／第二節 衛生／第三節 救護
第十三章 会場ノ取締	第十四章 出品
第一節 出品台帳／第二節 出品統計／	第四節 売約



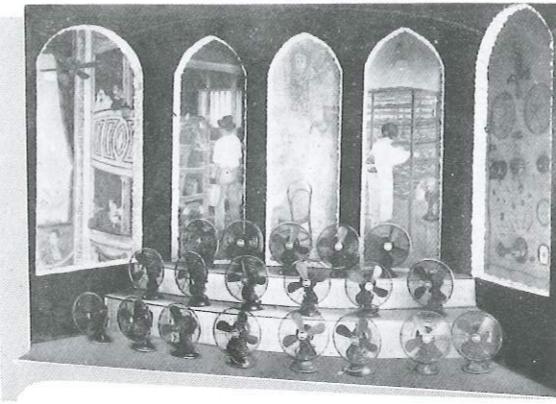
二

●『日本婚礼進化博覽会誌』(1936年)より

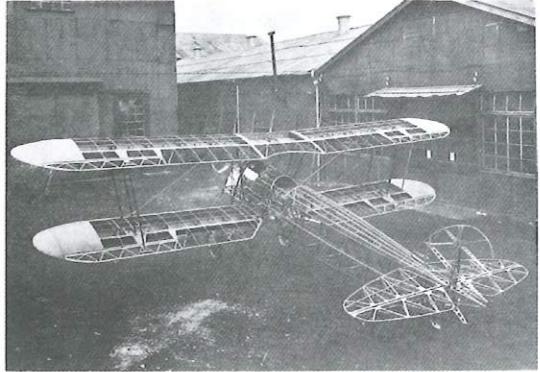
……《婦人・こども・電気博覧会》に収録



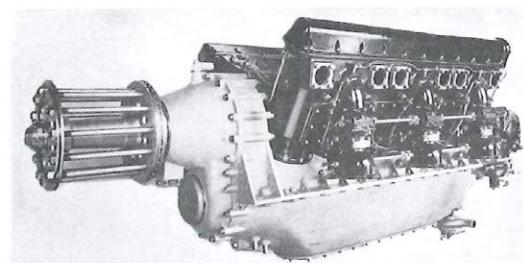
品製所作製機電上井社會式株
具器高特盤電配



部一の外陳品出社業企氣電北川社會式株



第五圖 石川島飛鳥行製機所製 R3 型輕型飛機機械組



機動發力馬○五四ザイスノバスイ製社會式株機空航變三 圖六第

○『日本海々戦 海と空の博覧会報告』(1930年)より
……《戦時・国防博覧会》に収録



◎『大東亜建設博覧会画報』(1939年)より

……《戦時・国防博覧会》に収録